



教育委員会側 議題

エージェンシーによる学びの未来

～主体性・デジタル・生成AIが織りなす新しい教育～

令和8年7月
都城市教育委員会

本日の内容

1 「エージェンシー」育成について

- エージェンシーの概念と重要性
- 子ども自ら学習計画を立て実行する授業



2 デジタル技術と生成AIの教育利用

- GIGAスクール構想とデジタル技術の活用
- 指導者のスキル格差解消に向けた研修
- 生成AIパイロット校事業の取組



3 エージェンシーを育む教育環境づくり

- 心理的安全性の確保
- 誰一人取り残されない学びの保障



1 「エージェンシー」育成について

令和8年度 都城市学校教育ビジョン

人間力あふれる児童生徒の育成

人間力とは

社会と世界に関心をもち、人生をよりよく生きる力

教育振興基本計画

持続可能な社会の創り手の育成
日本社会に根差したウェルビーイングの向上

「主体性」から「エージェンシー(Agency)」へ進化

先生が敷いたレールの上で頑張る『主体性』から、子ども自ら目的を定め、
周囲と協働しながら、自ら舵取りする力『エージェンシー』への進化

1 「エージェンシー」育成について

予測困難な時代を生き抜く「エージェンシー」への転換
敷かれたレールを走る「主体性」から、自ら目的地を定める「エージェンシー」へ

これまでの「主体性」

与えられた課題（レール）に対して、
真面目に自ら進んで取り組む力



これからの「エージェンシー」

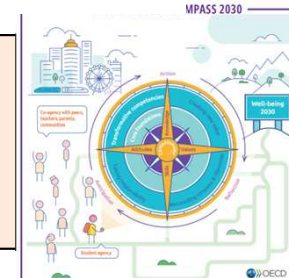
課題（レール）がなくても自分で目的地を
定め、失敗を恐れずに挑戦する姿



指導のゴールをもう一段階、未来に向けて引き上げる挑戦！

OECD（学びのコンパス2030）

「変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」



1 「エージェンシー」育成について

エージェンシーを支える「自己調整」の学習プロセス

問いをもつ

教師が一方向的に課題を与えるのではなく、授業の導入で児童生徒が自ら「解決したい」「知りたい」と思えるように、課題を自分事として捉えさせ、「問い（課題意識）」をもたせる。



学習内容・学び方を振り返る

児童生徒に学びを委ねるからこそ、「何を学んだか（学習内容）」と併せて「どう学んだか（学び方）」を振り返らせ、言語化して全体で共有することで、学びの質を高め、次の学びへとつなげる。



ICT端末
の活用



他者参照

学びの共有

自己選択・自己決定する

問いを解決するために「誰と学ぶか（一人、ペア、グループ、先生等）」「何で学ぶか（教科書、資料、ネット等）」「どこで学ぶか」を児童生徒が意図をもって自ら選択・決定しつつ、対話を通して学びを進める。



ICT端末
の活用

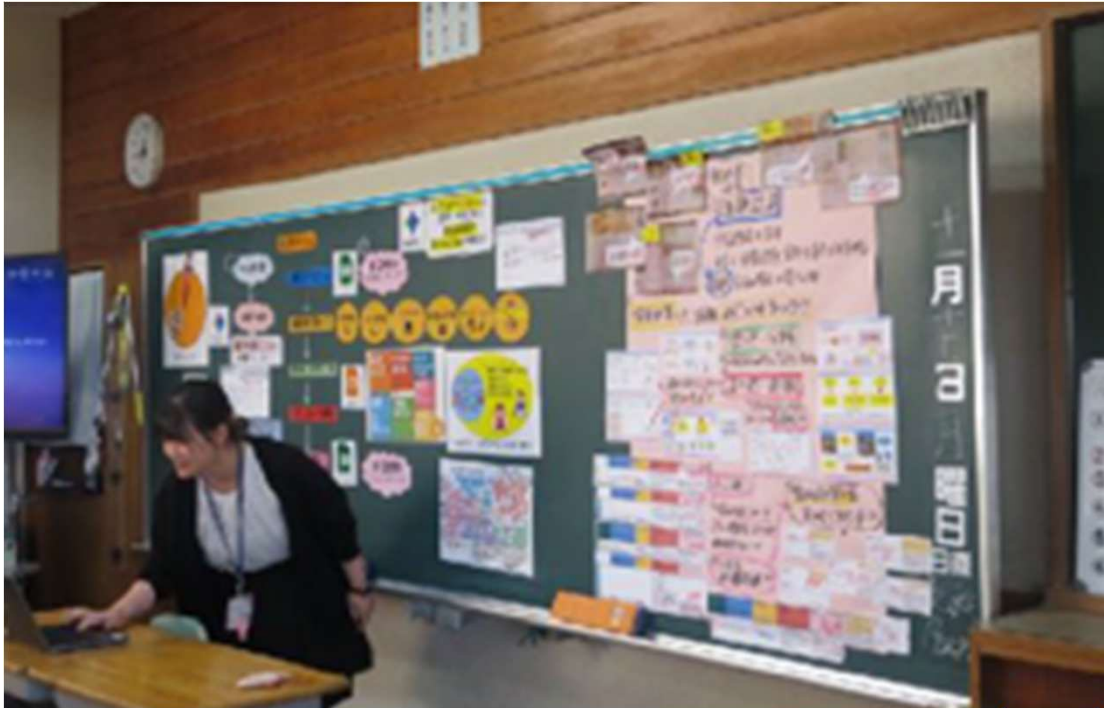
2 デジタル技術と生成AIの教育利用

GIGAスクール構想は「2期目」へ



2 デジタル技術と生成AIの教育利用

選択肢の中から「目的に応じた活用」



「アナログ」
or
「デジタル」
の二項対立ではない。

目的達成のための「選択」

子どもに身に付けさせるために

指導者

目的の明確化

目的の共有

子ども

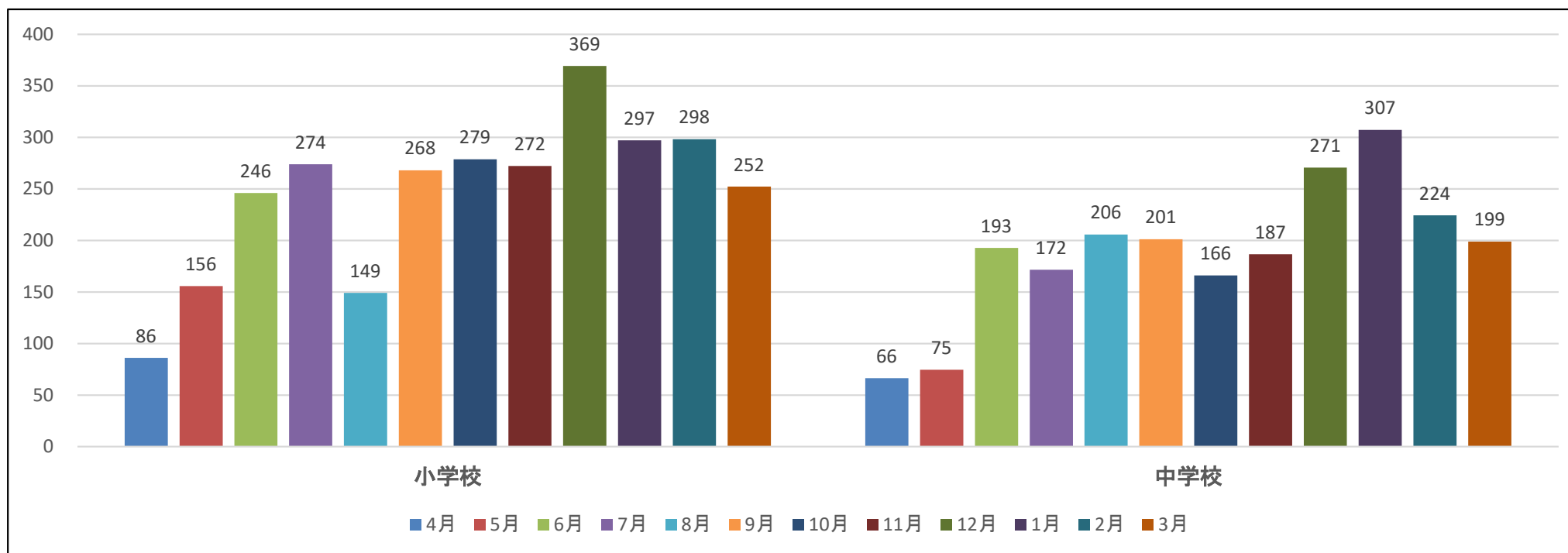
「何のための活動なのか」

「何のためにしているのか」

2 デジタル技術と生成AIの教育利用

個別最適な学び×AIツール「Qubena」＝基礎学力向上

R7 月間平均解答数【児童生徒1人あたりの解答数(問)】



全国平均

199.9問／月

都城市平均

240.3問／月

2 デジタル技術と生成AIの教育利用

キュビナ活用率 × 正答数（R7全国学調）

中

□キュビナ活用率65%以上

学校名	キュビナ活用率	正答数	県平均との差
A中	84%	6.5	+0.2
B中	70%	6.9	+0.6
C中	69%	7.3	+1.0

■キュビナ活用率50%以下

学校名	キュビナ活用率	正答数	県平均との差
D中	46%	5.2	-1.1
E中	42%	5.3	-1.0
F中	38%	5.6	-0.7

※キュビナ活用率は、令和6年度5～2月の平均WAU率（WAU率・・・週に1回以上使用した割合）

※正答数は数学を示す



中学校において、活用率65%以上の学校は、正答数が県平均を上回っており、活用率50%以下の学校は、正答数が県平均を下回っている。

2 デジタル技術と生成AIの教育利用

一方で、職員室のリアル

スキル格差の広がり

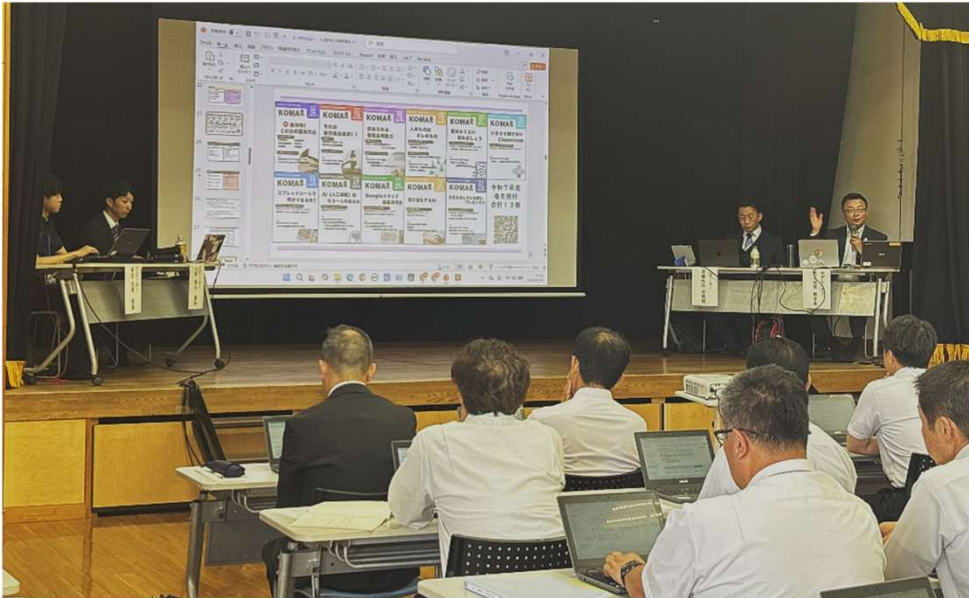
- ・よく活用している先生とそうでない先生との個人差がある。
- ・新しい機能が次々とアップデートされるので、ついていくのが必死。
- ・授業でどのように活用すればよいか分からない職員がいる。

ICTスキルの属人化

- ・一部の職員の活用にとどまっている。
- ・ICTに長けた職員がOJTでミニ研修を定期的に行っている。
- ・詳しい職員が異動し、活用が進んでいない。

2 デジタル技術と生成AIの教育利用

スキルに応じた研修



管理職向け: 教頭研修 (4月) 学校CIO研修 (5月)

ビギナー向け: Googleコア研修 (夏季休業中)

上級者向け: Google応用研修 (夏季休業中)
生成AI研修 (1月)



2 デジタル技術と生成AIの教育利用



未来の教育を切り拓く、生成AIパイロット校の活動！

2 デジタル技術と生成AIの教育利用

生成AIを見童生徒が活用 【志和池小学校6年生】



6月19日(金)MRT CHECK にて放送

3 エージェントを育む教育環境づくり

心理的安全性 —— 「エージェント」を 育む教育の土台

心理的安全性

「安全な場で失敗できる環境づくり」。弱さを見せ、間違いや失敗を含めてありのままの自分を受け入れてもらえる安心感。

土台としてのリーダー

校長をはじめとする教師が「伴走者」となり、笑顔で支える。失敗を恐れず挑戦できる強固な土台を築く。



自ら未来を切り拓く力 「エージェント」へ

安心感が本音の学び合いとのびのびとした成長を生み、ルールがなくても自ら目的を定め行動する力を育成する。

「誰一人取り残さない」居場所

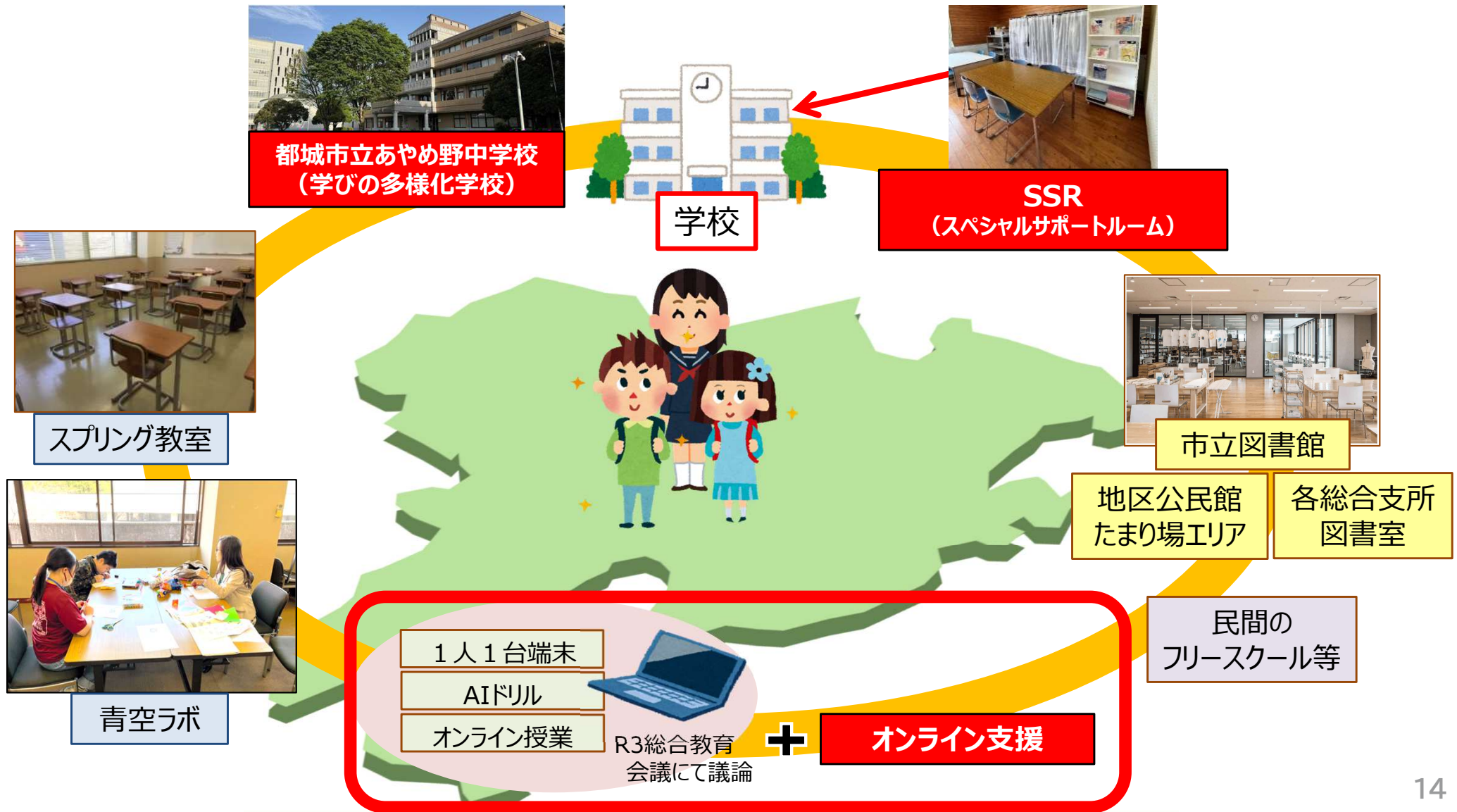
不登校傾向の子も含め、すべての子どもが安心できる包摂的な環境づくり。

「Try & Learn」サイクル

失敗から学び、改善を活かすプロセス。試行錯誤を全体で回し続ける。

3 エージェンシーを育む教育環境づくり

学びの場の選択肢を増やし、「誰一人取り残されない学びの保障」





幸せ上々、みやこのじょう

日本一の肉と焼酎、とっておきの自然と伝統